令和3年度

オンライン講座

第 17 回

まちづくり

II

17

2021
12月
No.17

熱海ブルーノ・タウト連盟

タウト塾@熱海

日本-「タウトの日記」 II

篠田英雄訳

-抜粋-

*** タウトと上多賀 ***

1935（昭和10）～ 1936（昭和11年）

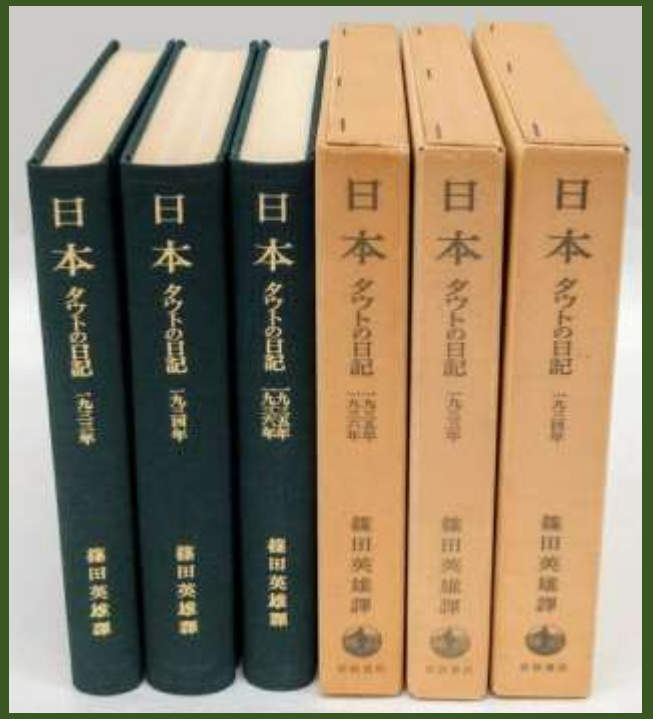
日本–「タウトの日記」II

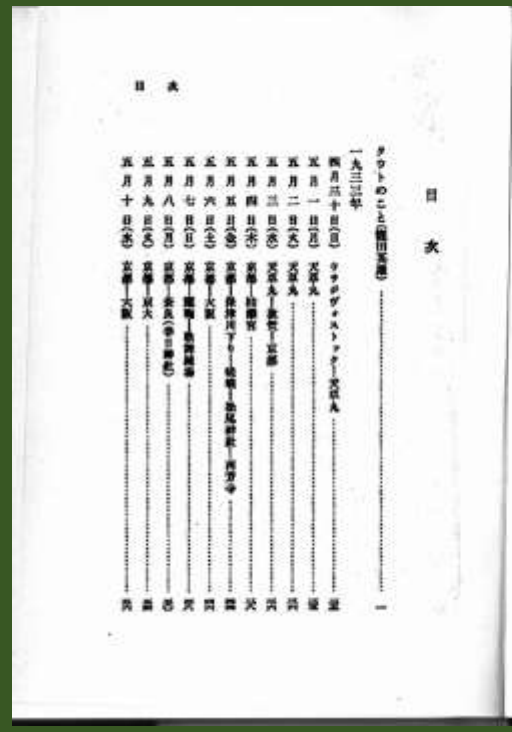
篠田英雄訳

-抜粋-

***　タウトと上多賀　***

1935（昭和10）～　1936（昭和11年）

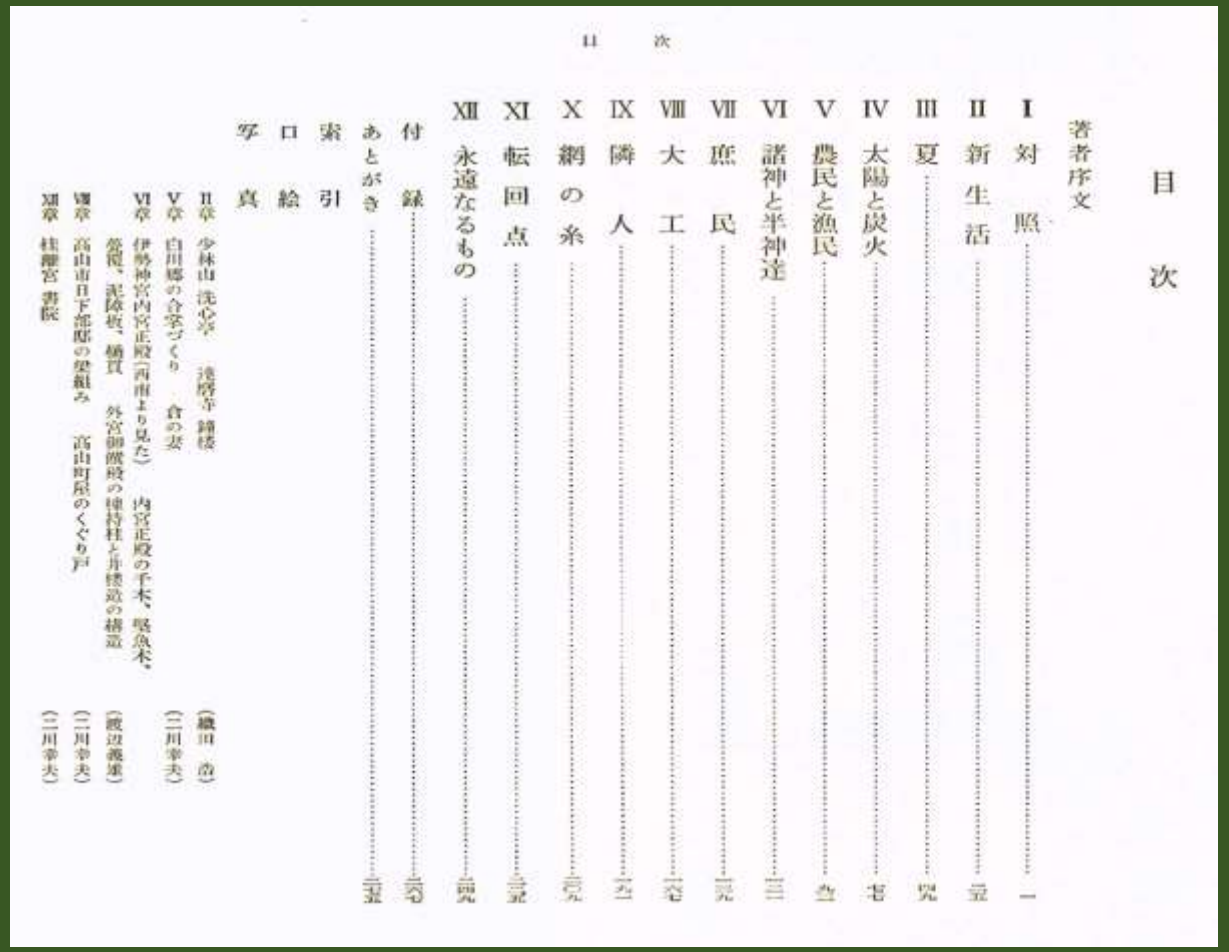




ブルーノ タウトは上多賀での喘息養生中に、

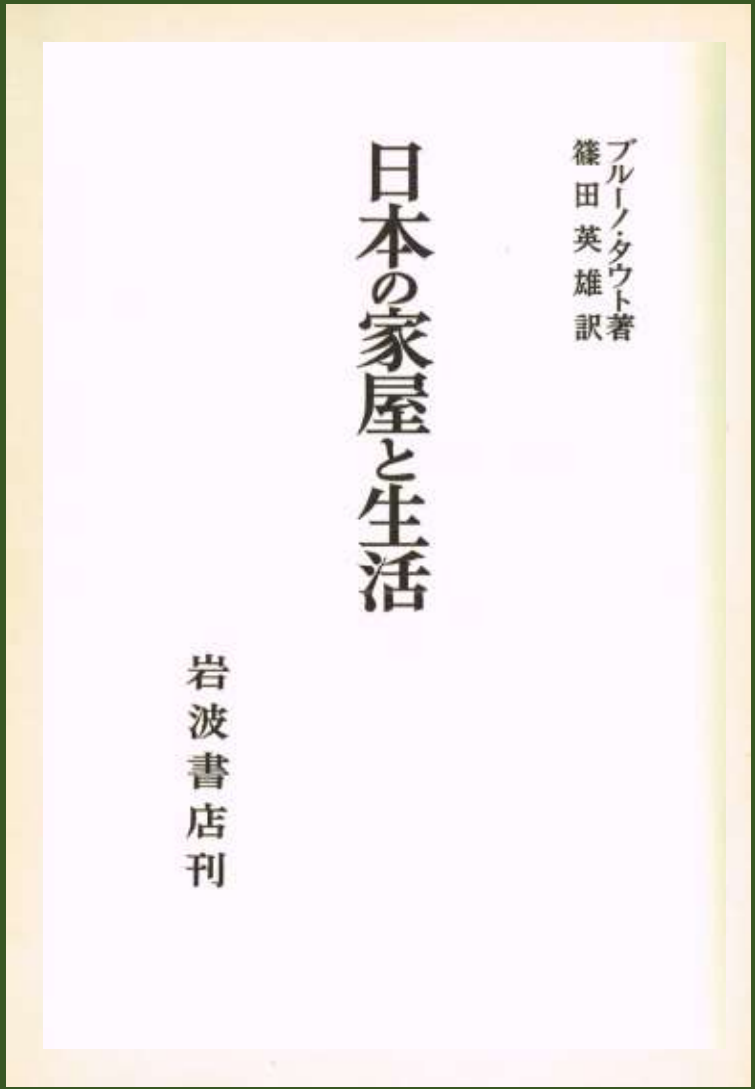
「日本の家屋と生活」

二章～六章までを書き上げ、七章を書き始めました。



目次

著者序文
I 対照……一
II 新生活……三
III 夏……四
IV 太陽と炭火……七
V 農民と漁民……九
VI 諸神と半神達……一一
VII 庶民……一五
VIII 大工……一八
IX 隣人……二一
X 絹の糸……二五
XI 転回点……二七
XII 永遠なるもの……二九
付録……三〇
あとがき……三五
索引
口絵
写真
II章 少林山 浅心亭 浅草寺 鐘楼 (織田 彰)
V章 白川郷の合掌づくり 倉の妻 (二川幸夫)
VI章 伊勢神宮内宮正殿(西南より見た) 内宮正殿の千木、堅魚木、
蕨縄、泥除板、樋貫 外宮御饌殿の棟持柱と井楼造の構造 (渡辺義雄)
VII章 高山市日下部邸の梁組み 高山町屋のくぐり戸 (二川幸夫)
VIII章 桂離宮 書院 (二川幸夫)



ブルーノ・タウト著
篠田英雄訳

日本の家屋と生活

岩波書店刊

旧日向別邸　と　タウトの在日

和暦	昭和8年	昭和9年	昭和10年	昭和11年
西暦	1933	1934	1935	1936
月	5 6 7 8 9 10 11 12	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10
日向別邸工事		（3年1ヶ月）		
一期工事	土地取得　上屋設計・工事　10ヶ月			
二期工事		土留め工事設計　土留め工事4ヶ月	18ヶ月（44%）	
三期工事			タウト設計・吉田　地下室工事　13か月（手直しこみ）	
タウト在日	3日タウト来日	（3年5ヶ月）		15日タウト離日

1933
昭和8年来日

1年6ヶ月

1935・昭和10年

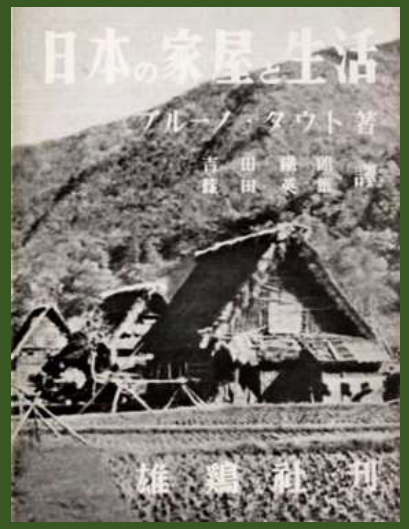
1936・昭和11年

ブルーノ タウト

エリカ夫人

日向邸

喘息養生



著作

タウトは熱海から多賀にかけて相模湾（多賀湾）をリビエラ、アマルフィーと賛美して呼び楽しんでいました。

両都市はイタリア半島の西海岸で、オリビア海に面した
傾斜地に造られた
建物と海の景色が
調和した美しい街
道です。

日本-「タウトの日記」

篠田英雄訳

*** タウトと上多賀 ***

1935（昭和10）7月21日

上多賀風景

多賀村に隣接する網代（あじろ）は漁業で有名な地。
7月には阿治古神社例大祭が行われ賑わいます。
山車や鹿島踊りなど太鼓の音にあわせて盛り上がります。

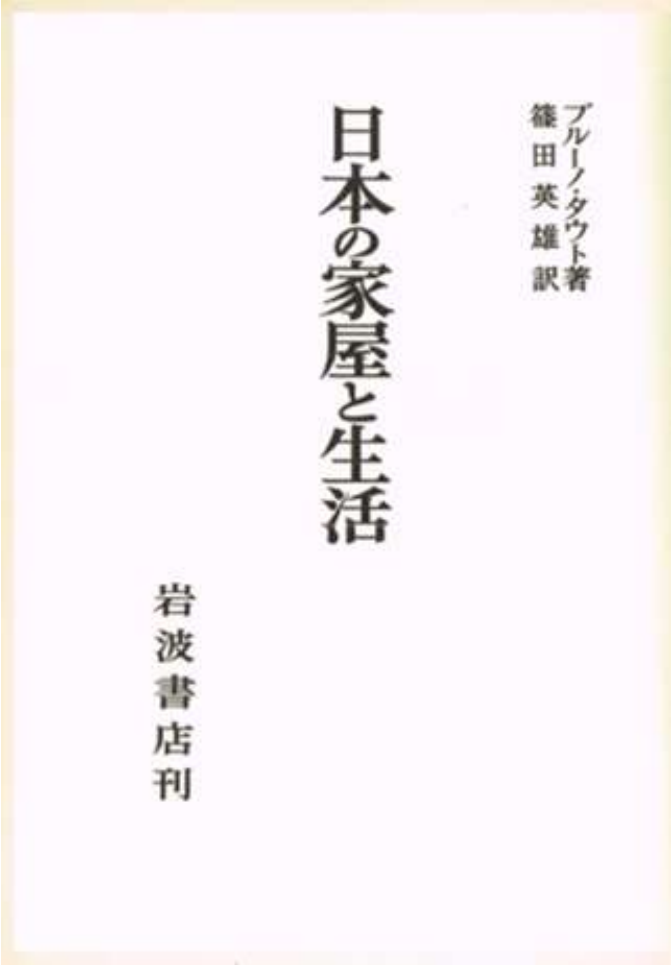
阿治古神社例大祭　伝統芸の「鹿島踊り」

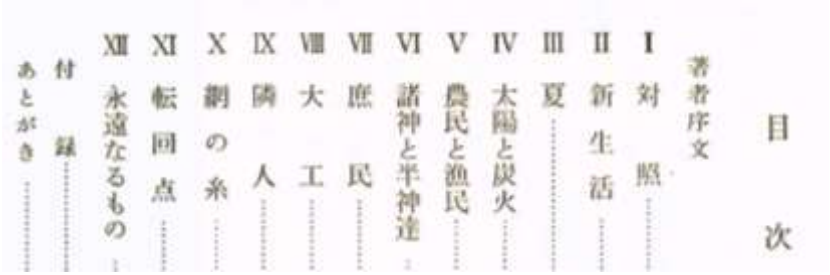
日本–「タウトの日記」

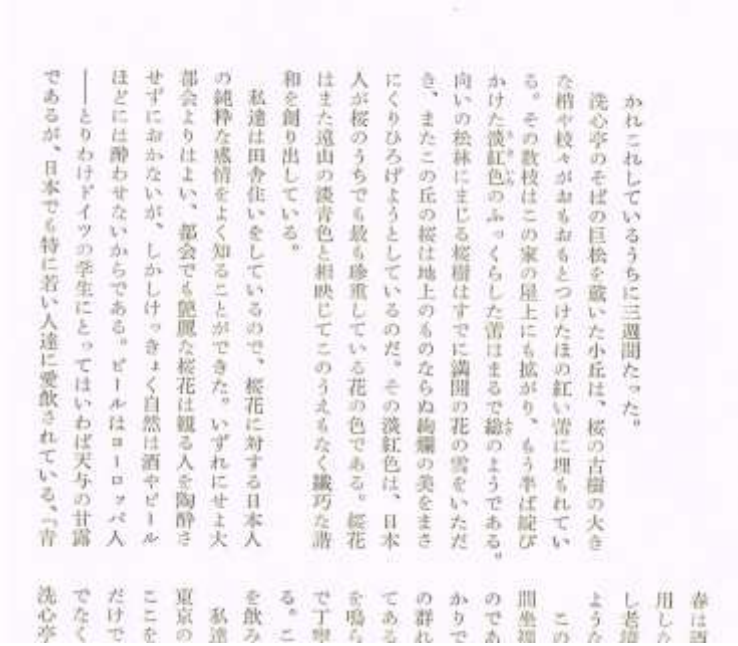
***　タウトと上多賀　***

1935（昭和10）7月25日

「日本の家屋と生活」
第二章・新生活　を書き上げました







かれこれしているうちに三週間たった。

洗心亭のそばの巨松を蔵いた小丘は、桜の古樹の大きな梢や枝々がおもおもとつけたほの紅い雪に埋もれている。その散枝はこの家の屋上にも拡がり、もう半ば綻びかけた淡紅色のふっくらした雪はまるで絵のようである。向いの松林にまじる桜樹はすでに満開の花の雲をいただき、またこの丘の桜は地上のものならぬ絢爛の美をまさにくりひろげようとしているのだ。その淡紅色は、日本人が桜のうちでも最も珍重している花の色である。桜花はまた遠山の淡青色と相映じてこのうえもなく巧妙な調和を創り出している。

私達は田舎住いをしているので、桜花に対する日本人の純粋な感情をよく知ることができた。いずれにせよ大都会よりはよい、都会でも壮麗な桜花は観る人を陶酔させずにおかないが、しかしけっきょく自然は酒やビールほどには酔わせないからである。ビールはヨーロッパ人——とりわけドイツの学生にとってはいわば天与の甘露であるが、日本でも特に若い人達に愛飲されている、「青

（洗心亭平面図）

日本–「タウトの日記」

***　タウトと上多賀　***

1935（昭和10）7月26日

漁師生活のイメージ

日向が移築した建物

現在・
多賀蕎麦

昔の邸宅

網代の夜景と漁火
（イメージ）

蚊帳の中に寝そべって
いるのは
えも言えず快適だ。・・・

景勝の地を占めている寺院があった・・・

景徳院（曹洞宗）

私は京都で買った太い横縞の浴衣をしょっちゅう着ている。

・・・・・

東京趣味のを誇る人達は、

女柄だといって冷やかしている。

日本–「タウトの日記」

＊＊＊　タウトと上多賀　＊＊＊

1935（昭和10）7月27日

昭和初期上棟式
（イメージ）

日本–「タウトの日記」

＊＊＊　タウトと上多賀　＊＊＊

1935（昭和10）8月1日

「やすこ」さん

少林山から手伝いに来てもらった「やすこ」さんは、親切でよく気のつく娘さんだ。・・・

少林山の仲間たち

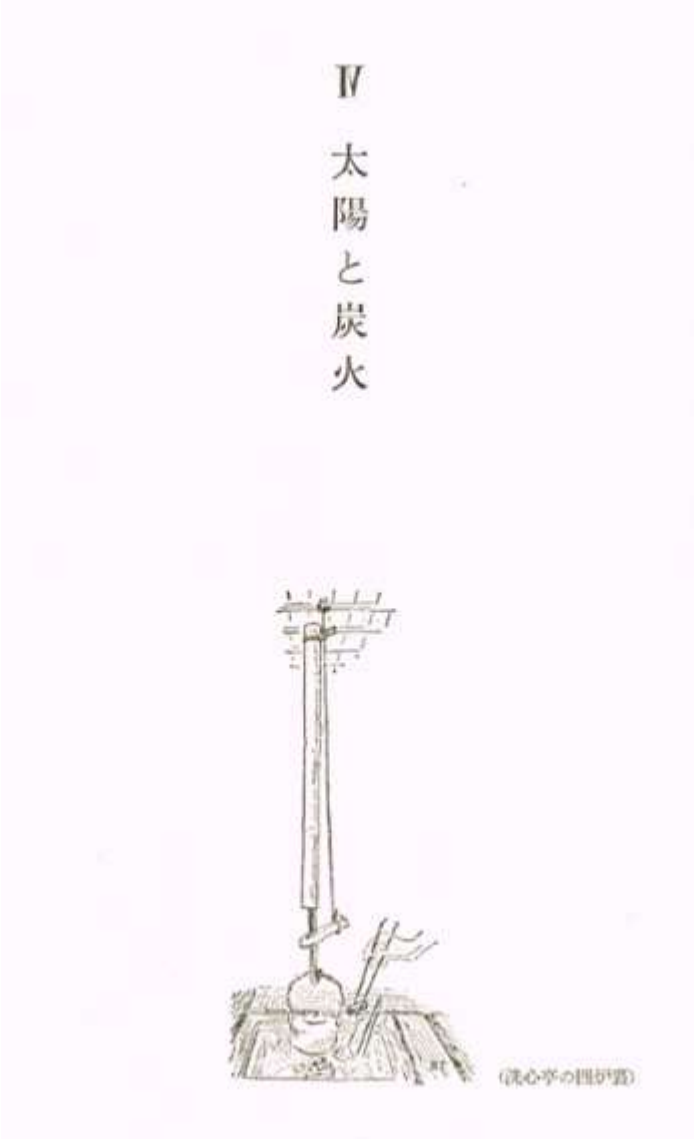
日本–「タウトの日記」

＊＊＊　タウトと上多賀　＊＊＊

1935（昭和10）8月4日

日本の家屋と生活
第三章・夏を脱稿
第四章「太陽と炭火」を始める

タウトは滞在日中、建築設計に恵まれなかった。
そんなことから「建築家の休日」と自嘲し、工芸品、本の執筆にいそしんでていた。



日本-「タウトの日記」

＊＊＊　タウトと上多賀　＊＊＊

1935（昭和10）8月7日

＊「漢字」よりその意味を探る＊

●建築　構造を意味する漢字

建--　垂直に立てること　　柱

築--　水平に築くこと　　梁　　意匠的というより構造的

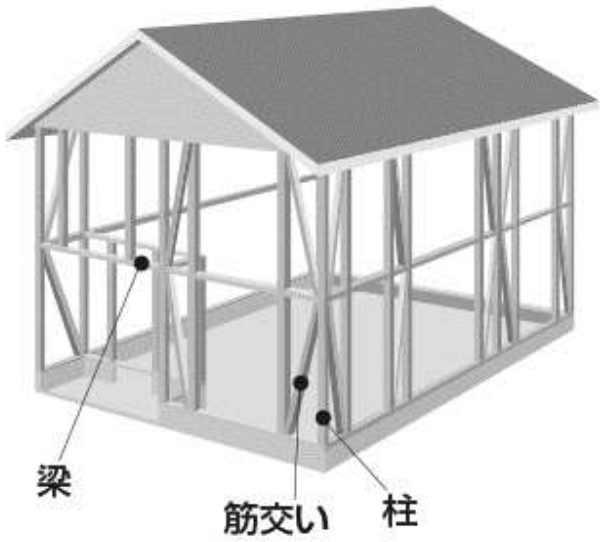
●棟梁　大工を束ねる大工

棟--　棟木（むなぎ）

梁--　梁　　「大工」という字より具象的

現在の多賀蕎麦

欅の柱と梁が見事である



日本–「タウトの日記」

＊＊＊　タウトと上多賀　＊＊＊

1935（昭和10）8月7日

＊いま多賀の大工に頼んで椅子と重いテーブルを
松材で作らせている。・・・

＊日向は私達が多賀を引き上げる際は
譲ってほしいといっている・・・

当時の熱海　七夕まつりのイメージ

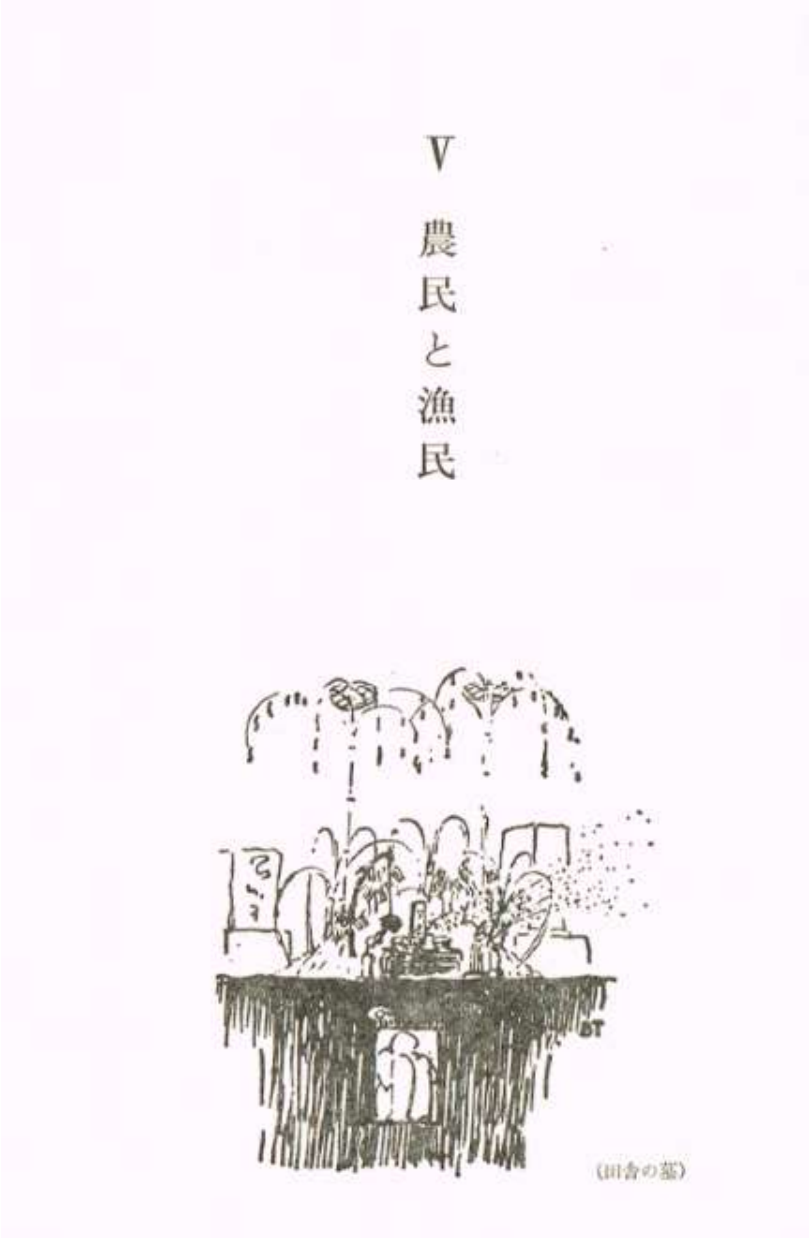
日本–「タウトの日記」

＊＊＊　タウトと上多賀　＊＊＊

1935（昭和10）8月10日

日本の家屋と生活
第五章・農民と漁民
を脱稿

第五章で紹介されている「合掌造り」の部分



V 農民と漁民

（田舎の墓）

日本–「タウトの日記」

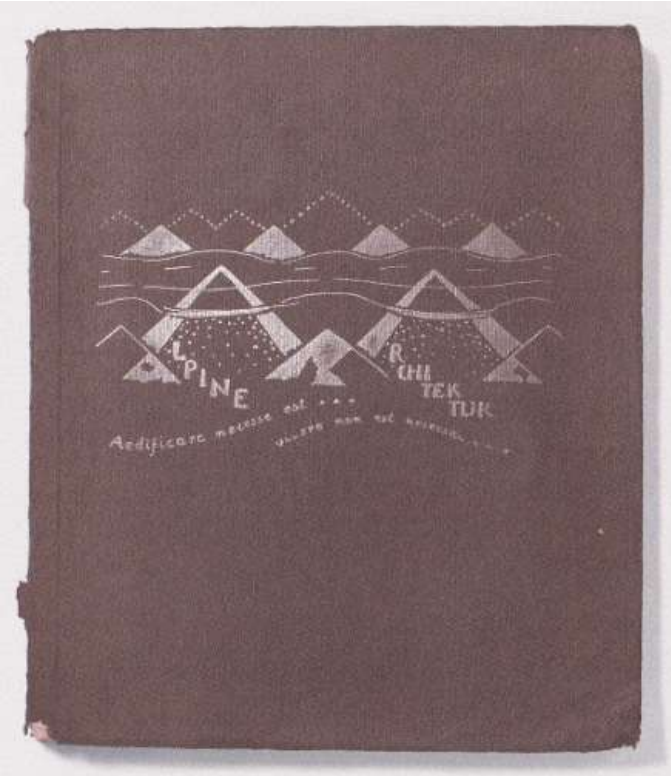
＊＊＊　タウトと上多賀　＊＊＊

1935（昭和10）8月16日

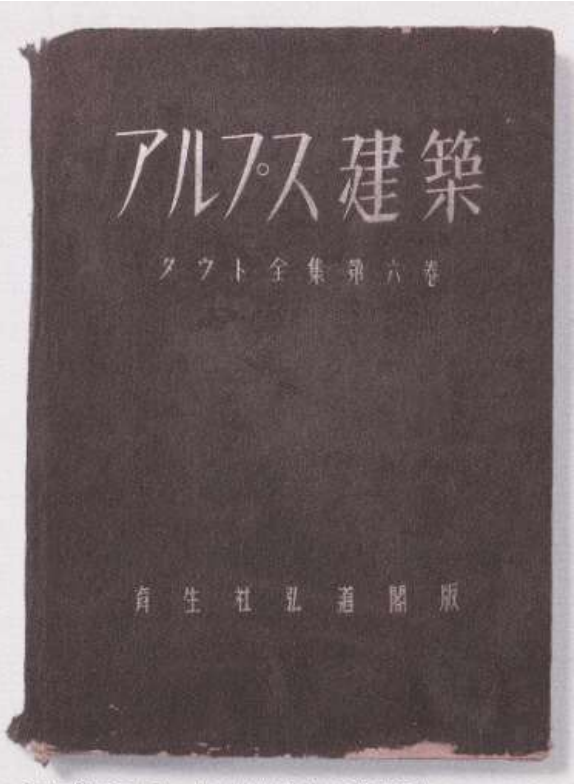
イタリアのリビエラ

日本のリビエラ

熱海・現135号線

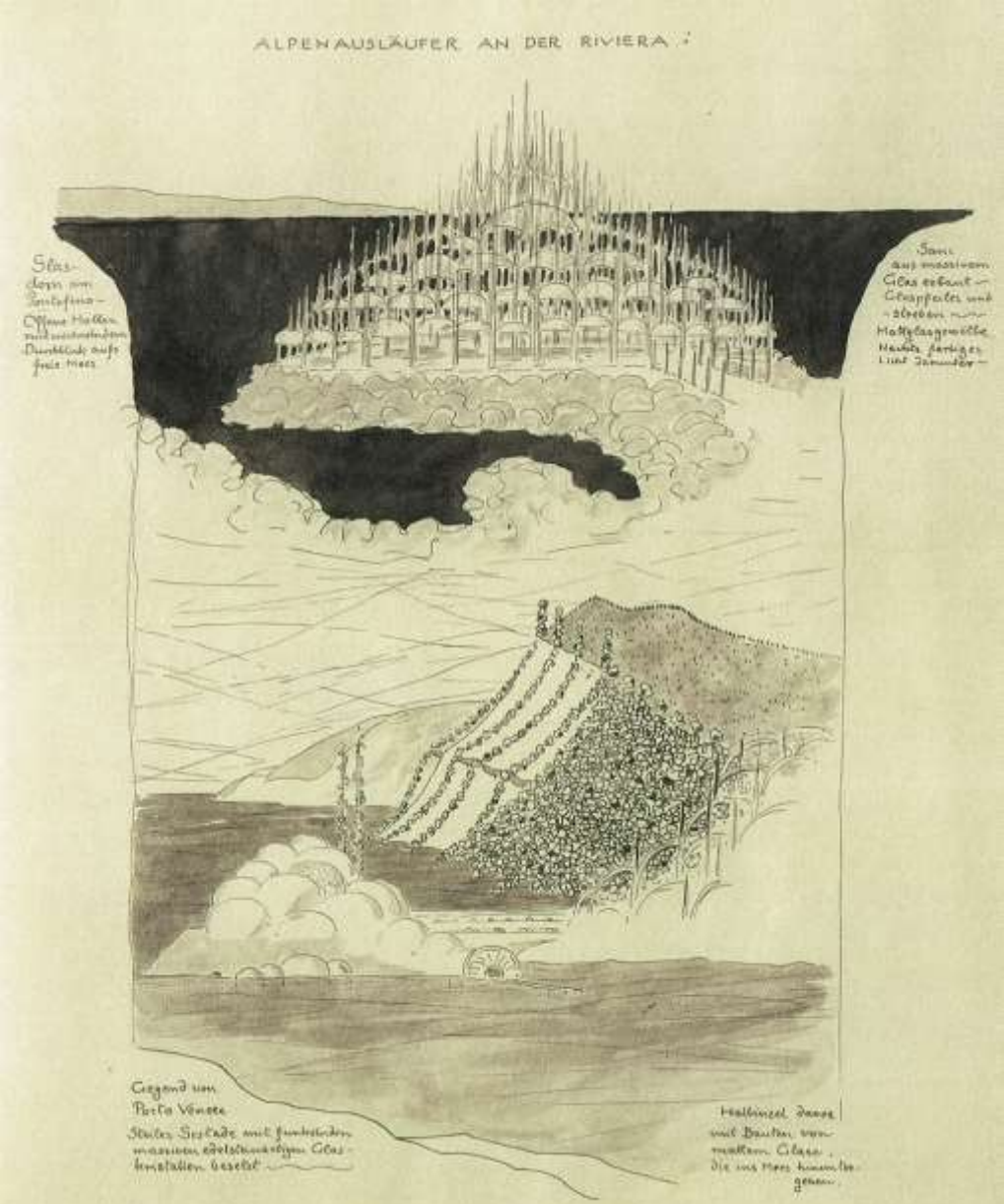


「アルプス建築」初版本　1920年



「アルプス建築」ブルーノ・タウト全集　日本語版　第6巻
篠田英雄訳（水原徳言の名を使用）育成社弘道閣版　1944年

『**アルプス建築**』はタウトの『ユートピア三部作』のひとつ。アルプス山脈にガラスの都市を築くというもの。詩人**パウル・シェーアバルト**（1863–1915年）の文学作品の詩的イメージが多彩に表現されている。ここに**タウトがイメージした「リビエラ」が描かれている。**



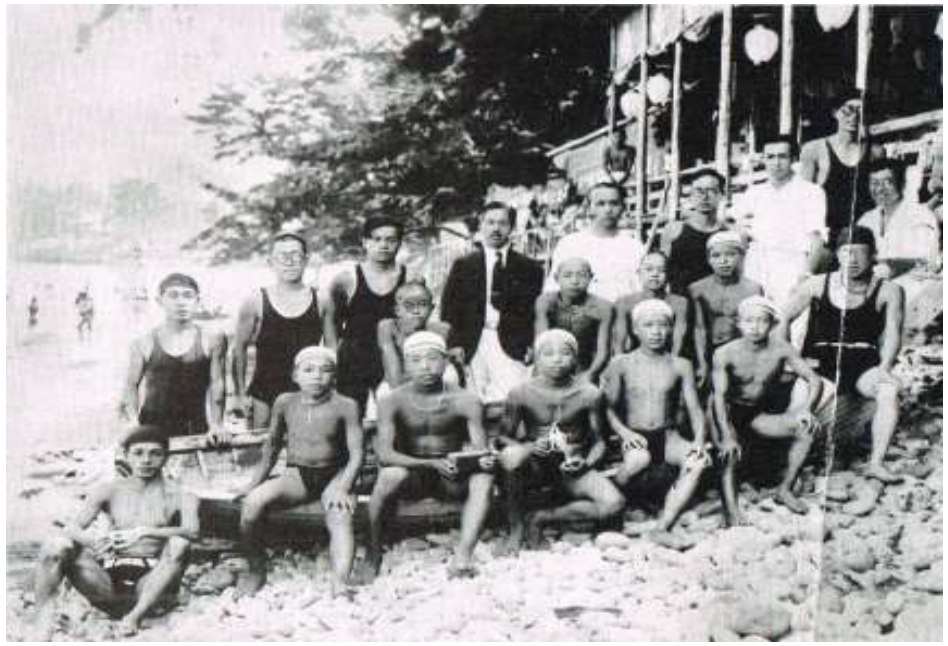
タウトの描いたリビエラ

日本–「タウトの日記」

＊＊＊　タウトと上多賀　＊＊＊

1935（昭和10）8月17日

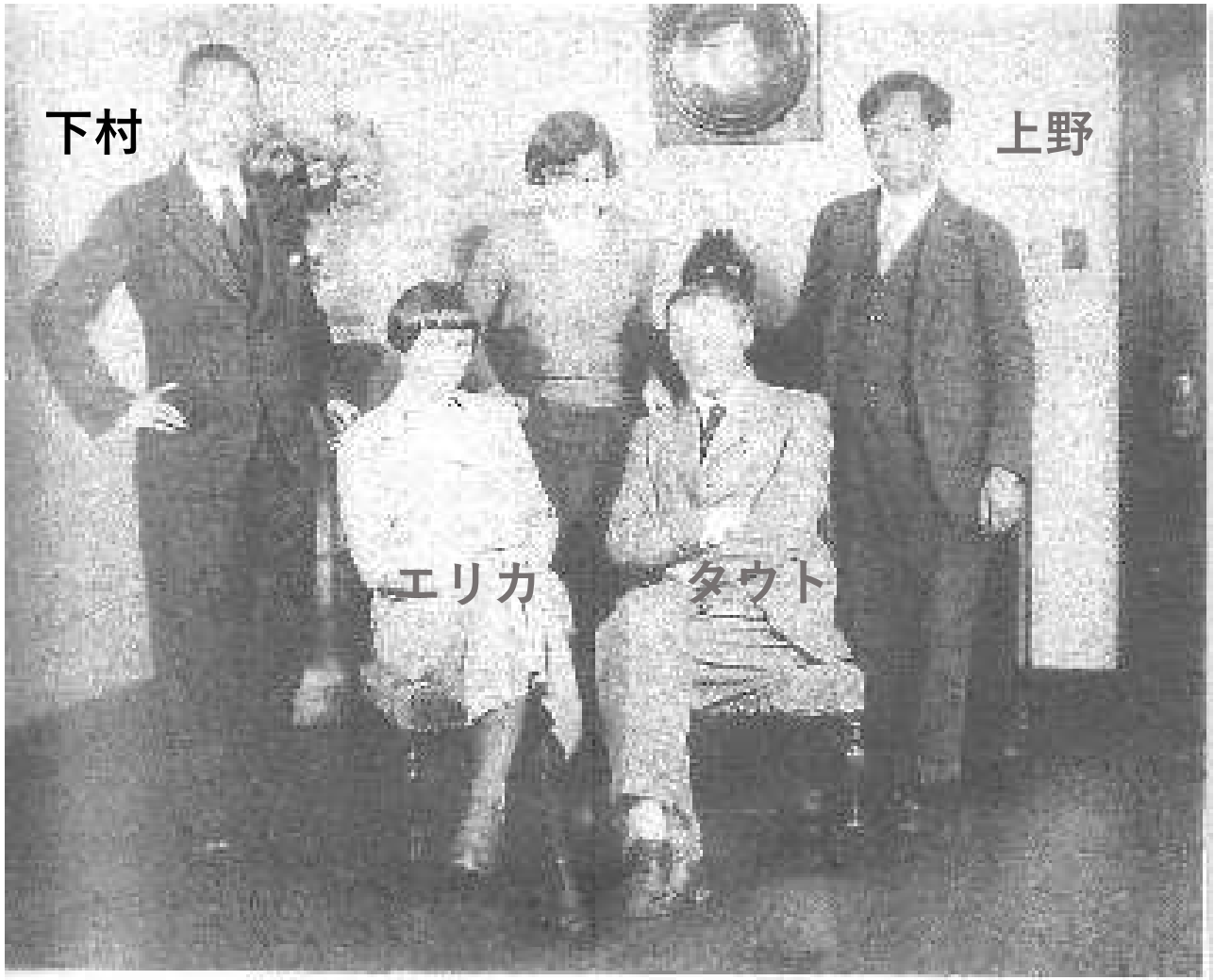
平均して静かな相模湾の中でも
ここ多賀の湾はなお一層静かで
こころ穏やかな場所である。



日本–「タウトの日記」

＊＊＊　タウトと上多賀　＊＊＊

1935（昭和10）8月25日



下村正太郎

1883～1944　11代大丸呉服店主。
早稲田大学商科入学。
タウトは来日に際し京都の下村邸の客となった。

タウトの桂離宮訪問も同行している。

初島

発動機船で渡ろうとしたが、強風であきらめる。

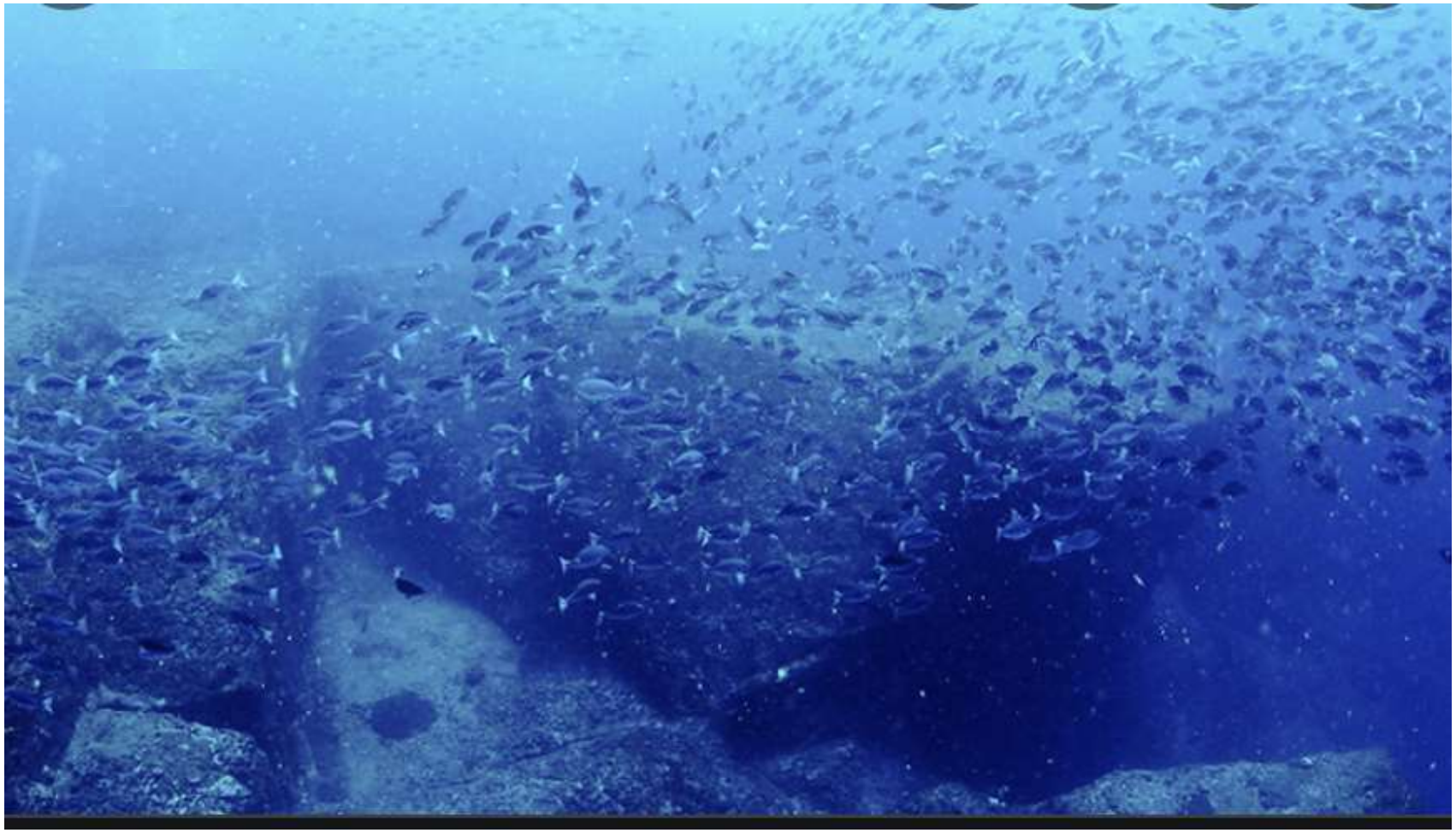
当時の初島を眺める 初島の海岸・魚漁

日本–「タウトの日記」

＊＊＊　タウトと上多賀　＊＊＊

1935（昭和10）8月28日

まるで自然の水族館だ・・・



日本–「タウトの日記」

＊＊＊　タウトと上多賀　＊＊＊

1935（昭和10）8月29日

日本の家屋と生活
第7章市民（庶民）
を書き上げた

上多賀で執筆された章

目次

著者序文
I 対照……
II 新生活……
III 夏……
IV 太陽と炭火……
V 農民と漁民……
VI 諸神と半神達……
VII 庶民……
VIII 大工……
IX 隣人……
X 網の糸……
XI 転回点……
XII 永遠なるもの……
付録……
あとがき……

第12章・最終章は
「永遠なるもの」
桂離宮となりました

日本–「タウトの日記」

***　タウトと上多賀　***

カントの言葉

1935（昭和10）9月2日

「星の輝ける大空は我が上に、道徳的規範は我が内に！」

今日はとりわけ海の景色が美しい・・・

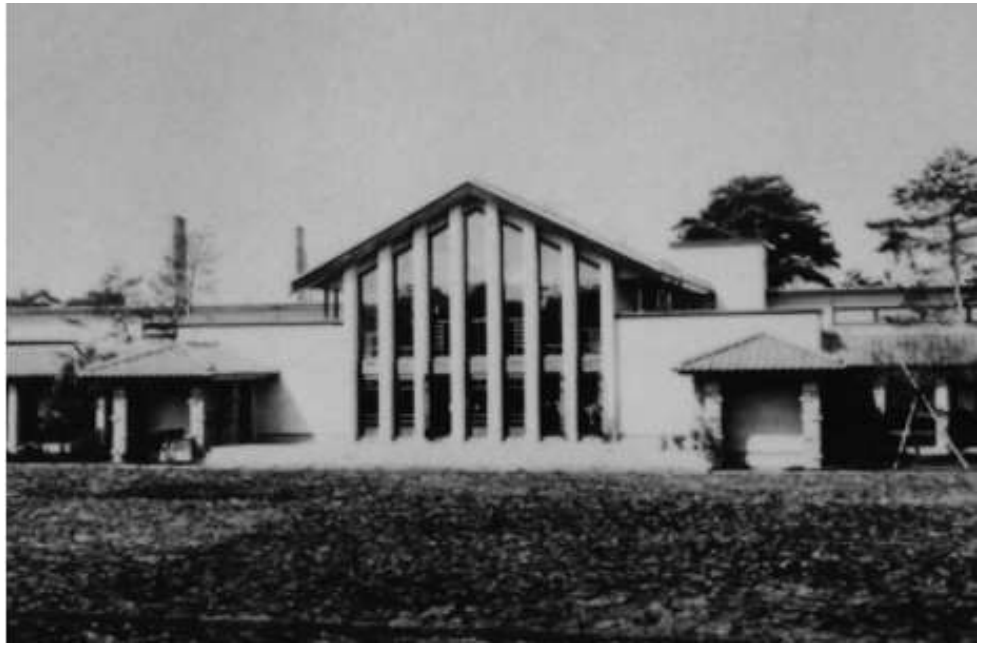
日本–「タウトの日記」

＊＊＊　タウトと上多賀　＊＊＊

1935（昭和10）9月3日

自由学園は女性の教育の為に羽仁吉一、とも子夫妻により造られた。設計はF.L.ライトによる。
重要文化財の「動態保存」（活用しながらの保存）で注目されている。

今和次郎
早稲田大学建築学科で長く教壇に立つ。民家、服装研究など「考現学」を提唱。建築学、住居生活や意匠研究などでも活躍した。



自由学園自在館

日本–「タウトの日記」

＊＊＊　タウトと上多賀　＊＊＊

1935（昭和10）9月7日

隣まちの伊東へ舟行した・・・

相模湾は上質な天草の名産地

日本–「タウトの日記」

＊＊＊　タウトと上多賀　＊＊＊

1935（昭和10）9月9日

多賀湾の風景

日本–「タウトの日記」

＊＊＊　タウトと上多賀　＊＊＊

1936（昭和11）4月2日

再び上多賀へ

＊エリカの天才的な思いつきで、また上多賀にくることとなった。・・・

タウトは喘息がひどく
エリカの勧めで
海気療法に訪れた

日本–「タウトの日記」

＊＊＊　タウトと上多賀　＊＊＊

1936（昭和11）4月8日

日本–「タウトの日記」

***　タウトと上多賀　***

1936（昭和11）4月25日

明日はまた荷物をまとめ東京へ発つ・・・

豪雨と烈風の中で、家がガタガタ揺れている

水原徳言：タウト唯一の弟子
常にタウトに寄り添い支援した

ご清聴ありがとうございました

令和3年度

オンライン講座

第 16 回

まちづくり

II

17

2021
12月
No.17

熱海ブルーノ・タウト連盟

タウト塾@熱海

日本-「タウトの日記」 II

篠田英雄訳

-抜粋-

*** タウトと上多賀 ***

1935（昭和10）～ 1936（昭和11年）

No.17 END